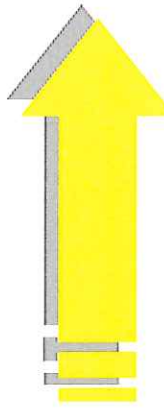


(株)館林、独立系発電事業 (IPP) に進出!



太陽光発電の専門メディア

『Pveye

Vol.11』

2013年2月号1月25日(金)



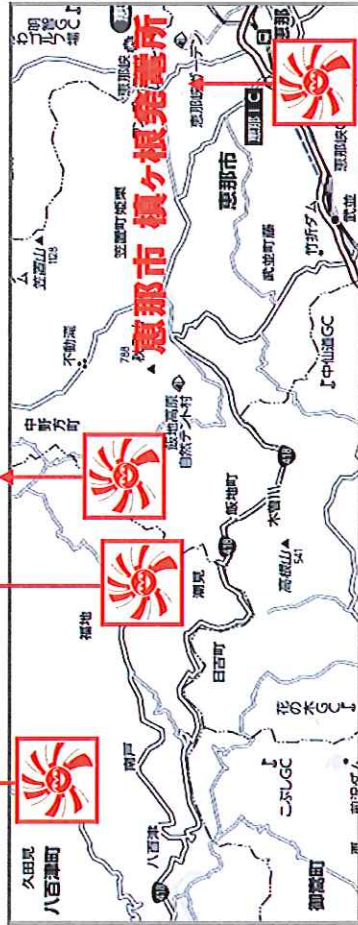
八百津町 久田見発電所

八百津町 潮見発電所

飯地町 石ヶ花発電所

飯地町 入野発電所

飯地町 鷹巣発電所



岐阜県東濃地域の6箇所に、3.4MWが年内完成予定!

インタビュー

トップランナー 自社ブランドモデル販売 木製架台もラインナップ

林業や住宅建築を手掛ける館林グループの太陽光発電システムメーカー、トップ・ランナー(岐阜県恵那市、館林正孝社長)は、自社ブランドのモデルの販売を始めている。2014年5月期に20MW以上を目指し、市場へ供給していく。

同社は、館林(岐阜県恵那市)のソーラー発電事業部を分社し、12年5月に設立した。館林正孝社長は、「住宅販売を行う館林では、約20年前から太陽光、25年前からは太陽光発電の施工・販売を手掛けている。全量発電の開始に伴い、分社して事業展開していくことにした」と経緯を述べる。

12年10月には、住宅用システムのI・P・E・C認証を取得。館林社長はモデルについて、「品質管理の徹底や安心感を得るため、OEM(自社ブランドでの生産)という形を取ることになった」という。住宅用はグループ会社であり、都道府店の「あつたな株の国から(岐阜県恵那市)」を通じて、代理店経由で販売している。

同社は現在、館林がモデルの生産は中国シンクメンに委託してい

る。「品質管理や技術、実績を担保した」(館林社長)。モデルの販売委託先については、今後追加し、ラインナップを拡充していく方針だ。

また、館林グループは、林業を売場としていることもあり、同社は木製架台を独自開発。農業用市場へ向け、12年12月より販売している。館林社長は、「燕に似く、構造体にも対応できるもの。漆喰等と同じ木材である鉛を採用しており、長期的な信頼性もある。価格についても基礎と架台を10万円以内で供給可能だ」と自信を見せる。

なお同社は、自社でのI・P・E・C(電気工事)事業として、6ヶ所合計5000坪の農業用太陽光発電の導入も進めている。館林社長は、「この自社での発電事業は、テスト的な意味合いもある。トータル1MW規模まで拡大したい」としている。

今後については、「産業用と住宅用の両面で拡販していく。13年5月期の販売量は、4MWから8MWを見込んでいる」としたうえで、「14年5月期に20MWから40MW、15年5月期に100MWから200MWを目指している」と語った。

出展『Pveye Vol.11』2013年2月号 P40 掲載

独立系発電事業者 (IPP: Independent Power Producer):
10年以上・1000kW超の供給契約か、5年以上・10万kW超の供給契約を、一般電気事業者と交わしている事業者のこと
⇒出光興産・JX日鉱日石エネルギーなど、約50団体